

やさしいうすき実行委員会 匹田くみこ 市議会たより



白杵市大字白杵70-16 (事務所)
白杵市井村1960番地 (自宅)
TEL&FAX 0972-63-7140
メール kuu.okok@gmail.com
公式LINEをはじめました。登録してください

2022年 1月号



暮らしは政治。安心して暮らせる地域のあり方をみなさんと考えたい。

2022年!新たなスタートみなさまはどんなふうにご過ごしていらっしゃいますか?
コロナ禍で地域のあり方は大きく変化し激動の時代に入っていくを感じています。当たり前の日常を、
地域のつながりを、失うことのないよう白杵市のために全力で働いてまいります。
今年もどうぞよろしくお願いいたします。

9月と12月の定例会で行った一般質問について報告します。

一般質問は、議決権(市長が出した予算案の決定権など)と並んで、議員に与えられた大きな権利だと思っています。質問と言いつつ実際には、やりとりがスムーズに進むよう担当課と打ち合わせを行い、質問の趣旨や目的を明確にしてから臨みます。

質問一答弁を通じて市政に関する事案について、執行方針や進捗状況を質して市民に知らせることに、加えて政策提言までできることが理想です。勉強あるのみ!!



12月定例会一般質問

通学路の環境改善と安全対策について

2021年6月に千葉県八街市で、小学生の列にトラックが突っ込み、児童5人が死傷した事故を受け、国は全国の通学路の点検を行うことを決めました。これまでの合同点検等の蓄積を活用し、見通しの良い道路や幹線道路への抜け道になっている道など車の速度が上がりやすい箇所、大型車の侵入が多い箇所、過去に事故にいたらなくてもヒヤリとした事例があった箇所、保護者や地域住民から改善要請があった箇所などを抽出して効率的・効果的な対応をするよう自治体にも求めています。白杵市の対策について質問しました。

Q 通学路の危険個所の対策は?

A 毎年調査したうえで「通学路点検対策箇所一覧表」を作成し、各学校から教育委員会に報告。情報や事故の事案は、児童生徒や保護者とも情報共有を図り、注意喚起を行っている。平成26年からは「白杵市通学路交通安全プログラム」を策定し、関係機関が横断的に連携する「白杵市通学路交通安全推進会議」を設置してPDCAサイクルで対策の改善や充実を図っている(橋周辺の転落防止柵の設置、交差点の見通し悪化を防ぐための除草作業、信号周辺の看板設置など)。



見守り活動を続けてくださる保護者や地域の方々とも共通理解を深め、児童生徒への交通安全マナー啓発に取り組むこと等で、より一層の安全対策に努め、漏れのない対策を続ける。【お答え:教育次長】

子どもの安全を最優先に!!



朝の通学見守りをしていて気になるのが横断歩道のマナーです。ほとんどのドライバーが一時停止で、歩行者や自転車が渡り終わるのを待ってくれますが、時折急いでいるのか、スピードを緩めず走りぬける車があります。*特に大分県では歩行者優先のマナーが30%しか守られていないとの報告あり。ドライバーの意識向上は必須ですが、子どもたちには「手を挙げて左右の安全確認をする」「横断に集中する」といった習慣を身につけてほしいですね。

また、道幅の余裕がない道路には、歩道部分の区間線や、緑に色付けするグリーンベルトの設置など、車道と歩道を明確に分ける効果的な塗装もお願いしました。

中学校の制服の見直しと自由選択制の導入について

気候変動で制服が現状に合っていないことや、男女の性差が少ないジェンダーレスなものにするという目的を主な理由として、県内の自治体でも導入が進んでいる「選択制制服」について、白杵市での検討状況を質問しました。

Q 白杵市の「選択制制服」についての検討状況は?

A 選択制も含めた制服の在り方については、心と体の性が一致しないトランスジェンダーの生徒への配慮や、暑さ寒さ対策、快適さ等の観点から重要視している。中学校ごとに生徒や保護者の要望や意向の把握に努めている。学校では、児童生徒の主体性をはぐくむ教育を推進しており自らの制服を考える過程においても自ら考え自ら行動することを期待してサポートしていく。保護者の経済的な負担の軽減を視野に入れて検討していく必要があると考えている。【お答え:教育長・学校教育課長】

【大分市】

「市立中学校制服検討委員会」を立ち上げ検討中。
※現行制服に、全中学校統一規格の「標準服」を加えることを決め2023年度からの導入を目指す。標準服は4種(ブレザー型のジャケット・スラックス・スカート・ハーフパンツ)で性別によらず着用できる(2021年12月23日発表)。

【豊後大野市】

2021年度から全中学校で制服選択制を導入済み。
小中一貫校への移行も踏まえ、生徒の意見を主体に、制服の在り方や、制服そのものの必要性、校則の意義といったことまで、幅広い検討を続けている。

【中津市】

2023年度から導入を表明(移行期間3年)。
上はブレザー、下は、ズボン、スカート、キュロットの中から好きなものを選ぶというスタイルで、夏は白シャツやポロシャツを想定。
※尚、それに先立ちアンケートを実施したところ、「選択制導入の必要がある」または「どちらかといえば必要である」と答えた割合は、児童生徒で75%、保護者で71%であった。



生徒を主役に!!



私の娘(高校生)は「冬場のスカートは寒い」と言います。周りからも自転車通学・掃除・野外活動など、学校生活における機能性や安全性を重視してズボンを選びたいという声を聞きます。

また、女性のパンツスタイルはすでに一般的なのに、「あなたは女子だからスカート」「あなたは男子だからズボン」とほぼ選択の余地がないことで窮屈な思いをしている生徒がいます。

選択の自由度を増すことで少しでも「生徒一人一人が自分らしさを損なわずに快適に過ごせる環境を整える」ことができるのではないのでしょうか。主体者としての生徒の意見を大切にしながら議論を進めてほしいと願っています。

9月定例会一般質問

学校教育の充実と今後の取り組みについて

Q 文部科学省は「小学校高学年からの教科担任制を2022年度をめどに本格的に導入する必要がある」と示しているが、小学校の教科担任制の導入にむけての現状と今後は？

A これまで小学校では、すべての教科を担当が指導していたがここ数年、小学校高学年を中心に中学校で実施されてきた教科担任制を導入し教育効果を高めようとする動きがあり、本市でも導入を進めている。メリットは、教員の専門性を活かした授業を複数のクラスで実施することができ、授業準備により多くの時間がさける。生活指導の面からも思春期を迎える時期に複数の指導者で対応したほうが生徒のこころを把握しやすい、などの点があげられる。

デメリットとして、児童と担任との接点が少なくなり関係が築きにくいことなどがあげられるが、考慮しながら積極的に推進する。さらに小学校3年生から英語がスタートしたこともあり、市独自で英語の教員を雇用し専門的な授業を実施している。【お答え：学校教育課長】

学校教育の充実を コロナ禍で、子どもたちにも確実にストレスがたまっていると思われます。「学校」は学習するだけでなく子どもたちの居場所やセーフティネットとしても大切な場所。ひとり一人の心のケアがしっかりできるような教職員のゆとりある配置など、学校教育の充実に注力してほしいと願います。

※この他に、タブレットを用いたオンライン授業についても質問しました。

水産業の資源回復や漁業の安定について

水産業は海に囲まれた臼杵市にとって外せない産業であり、地元の新鮮な魚は、私たち市民にとってもなくてはならないもの。現状分析と今後の水産業の展望について質問しました。

Q 臼杵市の漁獲量の変化は？

A ここ10年で1935トン(平成20年)→939トン(平成30年)と半減。漁獲量の減少は全国的な課題で要因としては、温暖化による海洋環境の変化や水産資源の乱獲などが影響していると分析されている。

Q 安定的な水産業経営の実現のためには？(収入の安定・漁食の付加価値・飲食店支援)

A 水産業の人材を確保する目的で「漁業担い手育成交付金事業」を制定し、計7名が新規漁業者として就業している。漁業者に対しては漁船に使用する燃料費の助成支援を継続中(令和2年度～)。

平成26年には「うすき海のほんまもん漁業推進協議会」を設立。臼杵産魚介類のブランド化や地産地消を推進している。※うすき地魚丼フェア(9月)、「臼杵ん地魚を買って！食べて！応援フェア」(10月～)など。

Q 海の資源管理や海洋環境回復のための取り組みは？

A アワビ・クルマエビ・ウニなどの種苗放流の支援を続けている。海底耕うん事業(プラスチック類など海底ごみを除去するとともにヘドロや泥などを攪拌して酸素を供給)の実施など、SDGs開発目標「海の豊かさを守ろう」に沿って様々な取り組みを行っている。【お答え：産業促進課長】

自然の循環の大切さを発信!!



ユネスコ創造都市ネットワーク食文化に加盟した臼杵市にとって魚介は魅力ある資源のひとつで豊かな海を守ることは地域経済にも大きな恩恵をもたらす。

さらに海洋環境保全は待ったなしで取り組まなければならない課題です。漁業者が海から離れることなく生活できるような環境を守り自然の循環の大切さを臼杵から発信していきたいですね。

成年後見制度の啓発と利用促進について

成年後見制度とは、認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が不十分な方々が、財産を管理したり、介護・看護などに関する契約を結んだりするうえで支障が出ないように、保護・支援するための制度。臼杵市でも高齢化率40%超、家族の在り方も多様になり一人暮らしの高齢者が増える中で、自身の療養や看護、金銭の扱いなどに、不安を感じている方は増えている。成年後見制度の一層の啓発や利用促進を期待して質問しました。

Q 市内の認知高齢者数と成年後見人制度の利用者数は？

A 2600人～2700人程度(65歳以上の18%弱)と推計される市内の認知症高齢者数に対して、成年後見制度利用者数は186件。※潜在的なニーズは、もっとあると思われます。

Q 成年後見人制度の利用支援や周知については？

A 臼杵市市民後見センター(平成26年度～。社会福祉協議会に委託)を中心に取り組んでいる。中核機関として、適した後見人を選ぶための「受任者調整会議」や「親族後見人相談会」を開催したり、市民後見人養成講座を開催したりしている(107名受講、95名登録)。まだまだ制度が広く知られているとは言えないので広報を工夫する。市民の中には「まだ先のこと」といった意識があるようなので、若いうちから「私ごと」として捉えてもらえるような啓発・広報に努める。

【お答え：福祉課長併福祉事務所長】

地域全体で支え合える仕組みを!!



よくわからないまま自分に不利益な契約を結んでしまい悪徳商法の被害にあう件数も増えています。「認知が衰えたとしても、一人ひとりの権利や尊厳を守りその人らしく暮らせるように支え合うにはどうすればいいのか」は市民みんなの課題です。「臼杵市みんなで取り組む認知症条例」も制定しました。

これから地域の中で対話とアクションを重ねて醸成していくテーマだと思えます。

◆12月議会を終えて◆

議会は「言論の府」と言われます。議員の言論は最大限に保障されるとする「発言自由の原則」に則って、多様な意見を話し合いのテーブルにのせてじっくりと意見を交わす。討論を尽くしても説得(合意)に至らなかった場合にのみ多数決が機能します。

※ただし発言の自由は「規律で定められた範囲内」。

現在の議会が、少数意見を軽視することなく「ていねいに話し合う土壌」をふだんから耕しているか…今一度、熟考していきたいと思えます。

意見や価値観が大きく異なるときにこそ話し合いを尽くし、地域や社会のためになる着地点を探ることが議会の役割だと思います。

「話し合う議会」「開かれた議会」を目指します!!

真に臼杵のための議論をしちよるかえ?

